

岸保賞、正野賞、山本賞のメダルについて

日本気象学会理事会

2014 年度から新たに「岸保賞」を設け、また、従来の「山本・正野論文賞」はその趣旨を継承発展させて廃止し、「正野賞」と「山本賞」を新たに設けました。

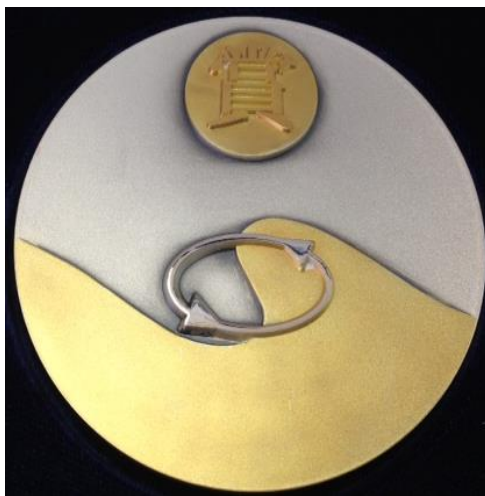
「岸保賞」と「正野賞」の副賞のメダルについては、そのデザイン案を広く学会員の皆様からご応募いただきました。メダル作成上の技術的な問題もあり、理事会や夫々の賞の候補者推薦委員会で検討した結果、次の様に決まりましたので、お知らせいたします。



岸保賞

岸保勘三郎先生は日本の「数値天気予報の父」として広く知られています。スウェーデン、アメリカに続いて1959年に世界で3番目に日本で数値予報を開始できたのも、岸保先生の学問的才能と強い情熱による所が大きいとされています。

本図案は、数値予報で予想された北半球高層天気図です。数値予報の初期には等高度線は線描画でなくラインプリンターで文字を打刻して表しており、それを図案化しました。



正野賞

正野重方先生は戦前戦後にかけて日本の気象学の基礎を築き、1950 年、大気擾乱の研究で日本学士院賞を受賞されました。その業績の「大気の擾乱の研究」は、12 篇の論文として発表されました。

本図案では、その内の気象集誌論文の「渦動の波動論」（1941）第 4 図の温帯低気圧に伴う寒気・暖気の移流の概念図をもとに、波動、渦、およびそれらに伴う大気移流を図案化しました。



山本賞

山本義一先生は大気放射学の世界的権威であり、そのお名前を冠した（旧）山本賞は 1980 年に創設されました。その後、1990 年度からは山本・正野論文賞に発展し、さらに、2014 年度からはその趣旨を継承発展させて廃止し、代わりに本賞と正野賞が設けられました。

本図案には、当初の（旧）山本賞の図案を採用し、山本・正野論文賞の図案に無かった先生のお名前の「義一」の文字を加えました。